

平成19年6月27日

各 位

会 社 名 株式会社サンオータス  
 代 表 取 締 役 社 長 北 野 俊  
 ( JASDAQ コード番号: 7623 )  
 問 い 合 せ 先 取 締 役 管 理 本 部 長  
 古 川 晴 男  
 TEL (045) 473-1211 (代表)

平成19年4月期 (連結・単独) 業績予想との差異および  
 期末配当予想の修正に関するお知らせ

平成18年12月25日付当社「平成19年4月期中間 (連結・単独) 業績予想との差異および特別損失の発生ならびに通期 (連結) 業績予想の修正に関するお知らせ」ならびに平成18年6月23日付当社「平成18年4月期個別財務諸表の概要」において発表いたしました平成19年4月期 (平成18年5月1日～平成19年4月30日) の業績予想との差異の発生について、下記のとおりお知らせいたします。また平成19年6月27日開催の取締役会において、平成19年4月期期末配当予想を修正し、当該配当案を平成19年7月26日に開催される定時株主総会に付議することを決議いたしましたので、あわせてお知らせいたします。

記

I. 平成19年4月期業績予想との差異

1. 平成19年4月期連結業績予想との差異等

(1) 平成19年4月期通期 (平成18年5月1日～平成19年4月30日) 連結業績予想との差異等

	売上高	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 ( A ) ( 平 成 1 8 年 1 2 月 2 5 日 発 表 )	28,000百万円	500百万円	145百万円
今 回 修 正 ( B )	27,488百万円	340百万円	110百万円
増 減 額 ( B - A )	△512百万円	△160百万円	△35百万円
増 減 率	△1.8%	△32.0%	△24.1%

(2) 差異の理由

売上高は、石油製品販売事業は、わが国の石油製品価格が夏場に原油価格の高騰を背景に上昇し、冬場に向けて一時下落いたしました。概ね高値圏で推移したことで消費者心理に影響を与えた結果、主力商品のガソリンの販売数量が前回予想より減少いたしました。また、暖冬の影響もあり、灯油の販売数量も減少しました。当社においては、不採算店舗SS3ヶ所の閉鎖を行い、公共工事協力のため1ヶ所のSSが半年間休業したことも数量減に大きく影響いたしました。この結果、石油製品の販売価格は通期では上昇したものの、数量減による売上高の減少をカバーするに至りませんでした。

自動車販売部門であるカービジネス事業の売上高は乗用車の販売台数減という環境下にもかかわらずBMW車の販売が好調でしたが、自動車営業部 (国産の新車・中古車の販

売・買い取り)売上高は前回予想比マイナスとなりました。

自動車販売部門全体では前回予想を上回りましたが、石油製品販売部門の計画未達分をカバーできず、連結業績の売上高は前回予想を下回ることとなりました。

経常利益においても、石油製品販売部門では上記の売上高減少と合わせて、販売数量の減少を抑えるため一部地域で競争の激化により採算を無視した販売合戦が行なわれ、当社も数量の確保を目指した販売活動を対抗策として打ち出さざるを得ない状況となり、採算性が悪化いたしました。

また石油製品価格の上昇は、収益性が高く当社グループが注力する油外商品の販売の消費動向にも影響を与えたため計画を下回り、利益面でも厳しい結果となりました。

BMW車の販売は利益面でも計画を大幅に上回る実績を上げましたが、石油製品販売事業での計画未達分をカバーするには至らず、経常利益も前回予想を下回ることとなりました。

当期純利益の減少要因は、経常利益段階での計画未達成に加えて、石油販売部門の不採算店舗の廃止に伴う固定資産除却損、子会社に対する貸倒引当金の積み増しを行ったことによるものであります。

以上の経営環境と経営施策の結果、当連結会計年度の売上高は27,488百万円（当初予想比：512百万円の減少）、経常利益は340百万円（当初予想比：160百万円の減少）、当期純利益は繰延税金資産にかかわる法人税調整を実施したため110百万円（当初予想比：35百万円の減少）となりました。

(3) ご参考：前期の実績(平成17年5月1日～平成18年4月30日)

	売上高	経常利益	当期純利益
通 期 (5月1日～ 4月30日)	27,128百万円	486百万円	229百万円

2. 平成19年4月期単独業績予想との差異等

(1) 平成19年4月期通期(平成18年5月1日～平成19年4月30日) 単独業績予想との差異等

	売上高	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 ( A ) (平成18年6月23日発表)	19,500百万円	440百万円	220百万円
今 回 修 正 ( B )	18,502百万円	249百万円	70百万円
増 減 額 ( B - A )	△998百万円	△191百万円	△150百万円
増 減 率	△5.1%	△43.4%	△68.2%

(2) 差異の理由

売上高は、石油製品販売事業と自動車営業部(国産の新車・中古車の販売・買い取り)が計画比マイナスとなり18,502百万円と前回予想比5.1%の減少となりました。

経常利益は、連結業績予想との差異において記載のとおり、石油製品販売事業の計画未達に加え自動車営業部が計画を下回ったことによるものであります。この結果、経常利益は249百万円（当初予想比：191百万円の減少）となりました。

当期純利益は、連結業績予想との差異と同様、経常利益での計画比減に加え、特別損失として石油販売部門の不採算店舗の廃止に伴う固定資産除却損、子会社に対する貸倒引当金の積み増し、繰延税金資産にかかわる法人税調整を実施したため70百万円（当初予想比：150百万円の減少）となりました。

ご参考：前期の実績(平成17年5月1日～平成18年4月30日)

	売上高	経常利益	当期純利益
通 期 (5月1日～ 4月30日)	18,647百万円	338百万円	161百万円

## II. 平成19年4月期期末配当予想の修正

### 1. 修正の理由

平成19年4月期期末配当金につきましては、当初1株当たり18円00銭と発表しておりましたが、上記の経常利益ならびに当期純利益の業績予想との差異の発生にともない、1株当たり16円00銭に修正いたします。

### 2. 平成19年4月期(平成18年5月1日～平成19年4月30日)期末配当

	中間配当金	期末配当金	年間配当金
前回予想 (平成18年12月25日)	—	18円00銭	18円00銭
今回修正	—	16円00銭	16円00銭

### 【参考】 平成18年4月期実績

	中間配当金	期末配当金	年間配当金
平成18年4月期	—	18円00銭	18円00銭

以 上